

# JV-Campusと教育の未来

～高等教育の国際的玄関口として、教育クラウドリソースとして～



大庭良介

(博士(生命科学))

大学の国際化促進フォーラム JV-Campus運営委員会 委員長  
筑波大学JV-Campus事業機構 プロジェクトリーダー  
筑波大学JV-Campus連携室 室長  
筑波大学教育推進部 教授

# 略歴

## 学歴

京都大学

総合人間学部 卒(2000年)

生命科学研究所 修了(2006年)  
(博士(生命科学))

筑波大学医学医療系において健康情報総合学研究室を主宰。専門は、細菌学、分子生物学、科学計量学、科学哲学、東洋思想など多岐にわたる。“科学とは何か”が現在の研究テーマ。

主な著書として、『総合智への方法論』(丸善出版、2025年)、『「型」の再考』(京都大学学術出版会、2021年)、『萌芽する科学技術』(共著、山口富子・日比野愛子編著、京都大学学術出版会、2009年)、『Bacterial DNA, DNA Polymerase and DNA Helicases』(Sam S. Bruns, Walter D. Knudsen 編著, Nova Biomedical Publisher, 2010年)、など。

## 職歴

筑波大学 人間総合学研究所・医学医療系 助教(2007年～2014年)

筑波大学 医学医療系 准教授(2014年～2024年)

筑波大学 教育推進部(兼・医学医療系) 教授(2024年～)



## 大学などにおける主な運営活動

- ・筑波大学 台湾オフィス所長(初代)(2015年～2018年)
- ・筑波大学 国際連携食料健康科学専攻(修士) 創立メンバー・副運営委員長(2014年～)
- ・筑波大学 学長特別ミッション マレーシア校設立Feasibility Study(2019年)
- ・筑波大学 国際室長補佐 戦略的パートナーシップ(国際)担当(2020年～2021年)
- ・JV-Campusプロジェクトリーダー・運営委員長(大学の国際化促進フォーラム)(2021年～)
- ・一般社団法人日本マイクロレデンシャル機構(JMICRO) 理事(2025年～)
- ・筑波大学 グローバル教育院地球規模課題学位プログラム 学位プログラムリーダー(2025年～)

- ① JV-Campusとは
- ② JV-Campusにおけるマイククレデンシャル
  - 内部質保証（内容と体制）
  - 外部質保証（JMICROの活用）
  - JV-Campusマイククレデンシャルの展開
- ③ JV-Campusの新たな展開



# Japan Virtual Campus (JV-Campus) 構想 (大学の国際化促進フォーラムプロジェクト)

SGU事業・大学の国際化促進フォーラム (2025年12月31日、120大学、133機関参加)

JV-Campus運営委員会 (毎月開催)



幹事校

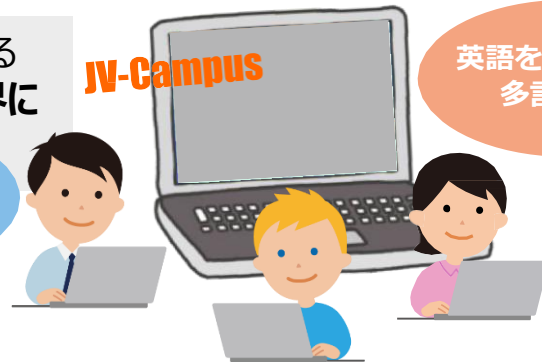


## オールジャパンで結成する国際的なオンライン教育プラットフォーム (JV-Campus)

オールジャパンで多彩で魅力ある  
戦略的科目群を構成し、世界に  
発信。

世界や社会に通用  
性のある多様な知  
の科目の集積

~日本語教育及び日本の  
強みを発信~



英語を中心とした  
多言語発信

希望する国内外の大学が、自大学  
の強みある教育コンテンツを世界に  
提供。

- ☞ 「各大学専用BOX」の提供とサポート
- ▶ プラットフォーム環境システム提供
- ▶ ポータルサイト機能の提供

### JV-Campus掲載資料

- ☞ 内閣官房「教育未来創造会議 我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について(第一次提言) 工程表」(令和4年5月10日)
- ☞ デジタル田園都市国家構想基本方針2022 (令和4年6月7日 閣議決定)
- ☞ 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ2022 (令和4年6月22日 閣議決定)
- ☞ 中央教育審議会大学分科会「高等教育を軸としたグローバル政策の方向性」(令和4年6月22日)
- ☞ 内閣官房「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ 第二次提言参考資料」(令和5年4月)
- ☞ 文部科学省「大学の世界展開力強化事業 (R5採択) ~米国等との大学間交流形成支援~公募説明会」(令和5年4月)

# JV-Campusを取り巻く施策状況

我が国の「知の総和」向上の未来像  
～高等教育システムの再構築～中央教育審議会（令和7年2月）

## 1. 今後の高等教育の目指すべき姿

- 社会の変化 …世界：環境問題やAI進展等、国内：急速な少子化
- 高等教育を取り巻く変化 …学修者本位の教育への転換等

**大学進学者数推計** 62.7万人 ▶ 59.0万人 ▶ **46.0万人** (約27%減)  
(出生低位・死亡低位) (2021) (2035) (2040)

高等教育が  
目指す姿

## 我が国の「知の総和」の向上

目指す未来像の実現のためには、  
「知の総和」（数×能力）を向上することが必須

内閣官房・教育未来創造会議（令和5年4月）

**未来を創造する若者の  
留学促進イニシアティブ**

J-MIRAI: Japan-Mobility and Internationalisation:  
Re-engaging and Accelerating Initiative for future generations

JAPAN GOV THE GOVERNMENT OF JAPAN

2033年に向けた目標

日本人学生の派遣	外国人留学生の受け入れ・定着	教育の国際化
<b>50万人を派遣</b> コロナ前22.2万人 非英語圏の仏・独と 同等の水準へ	<b>40万人を受け入れ</b> コロナ前31.8万人 留学生30万人計画の 受け入れ増加ベースの維持	国際的な 教育環境の整備や 対面・オンライン交流の推進

国立大学の決意  
わが国の将来を担う国立大学の新たな将来像  
国立大学協会（令和7年3月）

赤下線は講演者

今後、わが国は、急速な人口減少と産業競争力の低下を抑制し、ウェルビーイングな社会を実現するために「知の総和」を増大させる必要があるが、その中で、国立大学には、わが国全体の知のレベルを向上させること、産業のイノベーションに繋がる先端研究を推進すること、地域活性化・地方創生に係わることが求められる。

本「将来像」が国立大学の決意として目指すところの概要は以下のとおりである。

- (1) わが国の「知の総和」を増大させるため、地方及び女子の大学進学率を一層向上させ、意思と能力あるすべての者が高等教育を享受するという意識を持ち、そのための体制を構築する。同時に、学生定員の外枠等も活用して全学生の3割まで留学生受け入れの拡大を図り、世界から多様な頭脳をわが国に導き入れる。
- (2) 多様な分野における世界最先端研究を遂行する大学を中心に、学部定員の大学院定員への振替により、博士号取得者数を3倍に増加させる。併せて、公的部門や産業界等と協力して博士人材が活躍できる環境や条件を醸成する。
- (3) 各道府県に配置された地方大学の大学数を減少させることなく、大学間連携も図りつつ学部および大学院の構成と定員を見直す。地方大学は、地方自治体や地域産業界との連携によって地方創生に主導的役割を果たし、地方における人口流出を抑えることに大きく貢献する。

国際競争力けん引学部等の認定等について  
文部科学省（令和7年9月）

## 1. 特例措置のポイント

- 「大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）」に特例を新設するとともに、認定の基準等を定める規程を新設
- 体制が十分に整備されていること等を条件に、**優秀な外国人留学生の受け入れ割合の拡大を計画する学部等を認定**（短大・高専の学科も対象。大学院及び定員抑制分野（医師・歯科医師・薬剤師・獣医師・船舶職員の養成に係るもの）は対象外。）
- **認定学部等における収容定員充足率の上限を、学部等の規模に応じて、それぞれ5%引き上げ**（例：大規模学部の場合、現在105%となっている上限を110%まで引き上げ）

「日本人18歳人口の減少」

⇒

「**知の総和の向上**」  
「**留学生比率の引上げ**」  
「**能力の向上**」

# JV-Campus Vision

日本の高等教育

国際的オンライン教育  
プラットフォーム

学習者と教育者を繋ぐ 国際的オンライン教育プラットフォーム  
JV-Campus

日本の高等教育の玄関口として  
“ヴァーチャル” から “リアル” へ

新たな教育スタイルの創造

オンラインだけでも、対面だけでもない、新スタイルへ

高等教育のクラウドリソースとして  
キャンパスの日常とともに

国際空港モデル



## JV-Campus活用のシチュエーション例

### > 海外からの留学生を増やしたい

- |       |   |
|-------|---|
| 導入    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 留学生に日本に興味を持ってもらいたい ⇒ 日本文化等</li> <li>■ 留学生の日本への留学の敷居を下げたい ⇒ 日本語等</li> </ul>                         |
| リクルート | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 留学生に自大学を知ってもらいたい ⇒ 大学紹介、個別コース等</li> <li>■ 留学生を積極的に自大学に誘導したい ⇒ 事前単位付与コース等</li> </ul>                |
| 留学後ケア | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 渡日後の語学教育 ⇒ 日本語など</li> </ul>  |
| 卒業後ケア | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 豊富な英語教育コンテンツを届けたい ⇒ 一般教養・専門・日本文化・リテラシー等</li> <li>■ 国内外での就職活動を支援したい ⇒ インターンシップ、ビジネス日本語など</li> </ul> |



### > 日本人の留学を活性化し、効果を最大化したい

- |       |  |
|-------|--|
| 導入    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海外の授業（英語の授業）を受けることを日常化したい ⇒ 一般教養・専門・日本文化・リテラシー等</li> <li>■ 英語で日本文化を紹介できるようにしたい ⇒ 日本文化等</li> <li>■ 海外大学の授業に慣れさせたい ⇒ 海外大学提供コンテンツ</li> </ul> |
| 留学後ケア | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 留学の機会を紹介したい ⇒ 海外留学プログラム</li> <li>■ 留学後も自大学の単位取得を可能にしたい ⇒ 個別機関からの科目配信</li> <li>■ 留学経験を就職活動に活かしたい ⇒ インターンシップ・ネットワーキング、ビジネス日本語など</li> </ul>  |



### > スタッフの国際化を促したい

- 自己啓発：高等教育の国際化の理解や能力向上をしたい ⇒ 英語科目、SD科目、海外大学提供科目

### > 社会とアカデミアをグローバルに接続したい

- 産官学民の新たな共鳴を生み出したい ⇒ ハブ機能、自治体・企業活動の教育コンテンツ化、社会リソースなど

# JV-Campusプラットフォーム機能(日・英完備)

## オンライン教育における質の保証

オンデマンド/  
リアルタイム講義

テスト  
課題の実施

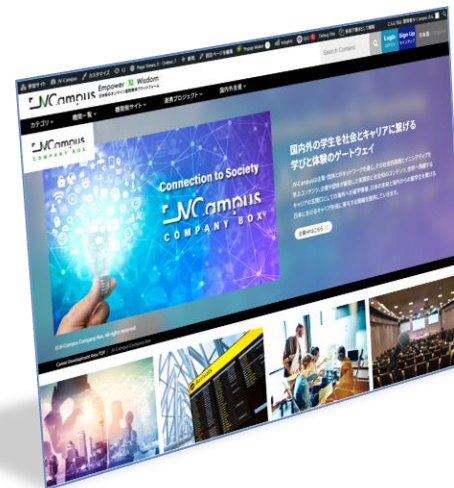
レポートの提出

成績管理

デジタルバッジの発行

▶ 国際通用性のある学習歴の一括管理等ができる機能 (eポートフォリオ) を実装

- ①ポータル機能; 様々な大学・機関・企業コンテンツの入口
- ②学習管理(LMS・Moodle)機能; オンライン教育のマネジメント・実施機能
- ③動画配信機能; JVCコンテンツサーバから独自のオンデマンド配信
- ④eポートフォリオ機能; 学習歴管理・バッジ格納等
- ⑤デジタルバッジ・電子証明書発行機能; Verifiable Credentialsに準拠
- ⑥教材アーカイブ機能; NHK映像作品、専門家有志の教材
- ⑦セミナー機能; メタバースを実装



# JV-Campusのポートフォリオ・バッジ発行システム・学習システム

## コンテンツ視聴 (リアルタイムでもよい)

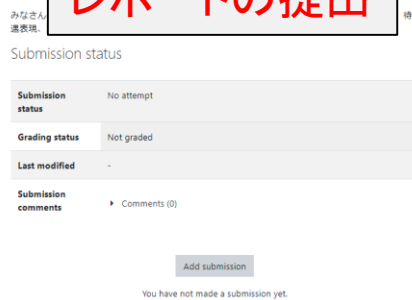


## PayPalによる 支払いシステム

## テストの実施

- 問題 1
- 未解答  
最大得点 1.00  
予 問題にフックを付ける
- 型という方法の特徴として正しいものを選択してください。
1. 特定の題材について分析的な理論を伝達する手段である
  2. 再現性のないものである
  3. 非業筋の前提条件に分解すると形骸化過程を失うものである
  4. 形が伝える情報は「型」が示す設定の中のみで有効である
- 問題 2
- 未解答  
最大得点 1.00  
予 問題にフックを付ける
- 型という方法の特徴として間違っているものを選択してください。
1. 要素分析的な理論の手段である
  2. 保存的であり再現的である
  3. 高要素の定義は変化する
  4. 内在する情報は「型」の外でも有効である

## レポートの提出



## 掲示板による交流



## ユーザレポート - Wanio LyoSuke

## 成績管理

評価項目	計算済み加重	評定	範囲	パーセンテージ	フィードバック	コース合計への寄与
■ 型・形～日本伝統武道における教習の伝達方法～科学的アプローチを補完する方法として						
Mini test (Part1)	0.00 % (空白)	-	0-3	-		0.00 %
Mini test (Part2)	0.00 % (空白)	-	0-3	-		0.00 %
Mini test (Part3)	0.00 % (空白)	-	0-3	-		0.00 %
レポート課題	0.00 % (空白)	-	0-100	-		0.00 %
〆 コース合計	-	-	0-5	-		-

## デジタルバッジ 発行 (OBv3.0) (JV-Campus独自の基盤)



## 【学習者へアプローチ可能】

## eポートフォリオ



## バッジウォレット付

# JV-Campusでバッジの発行・管理・共有が可能です！

## ポートフォリオで管理



## URLで共有

<https://portfolio.jv-campus.org/badge/926CE45A-7037-4C5B-B722-AA10285591EA/>

## PDFで共有



## 共有

## SNSで共有



## バッジのデータ

2025 JV-Campus Literacy of Contemporary Japanese Society Micro-Credential

発行: JV-Campus  
有効期限: 無期限  
発行日: 2025/09/14

概要: 現代日本の社会事情を、「文化的・社会的背景」、「地域社会の課題」、「世界の中の日本」という3つの視点で理解し、現代日本の社会課題に取り組み基礎的知識を身につける。 This course aims to develop foundational knowledge for understanding and addressing key issues in contemporary Japanese society. It approaches these issues from three perspectives: Cultural and social background, Challenges in local communities, Japan's position in the world.

獲得条件: 学修成果 / Learning outcomes

- ・日本社会に適應する文化的・社会的背景を理解できる。
- ・日本の地域社会における課題と挑戦を理解できる。
- ・世界の中の日本の立ち位置と課題を理解できる。

1. To be able to understand the cultural and social background underlying Japanese society
2. To be able to understand the challenges and efforts in Japan's local communities
3. To be able to understand Japan's position and issues in the global context

授業言語 / Language: 英語 / English

授業の方法 / Form of participation: 講義・多肢選択テスト・オンデマンド / Lectures, Multiple-Choice Tests, On-Demand Lecture Video

学習量 (総学習時間) / Learner Effort: 総学習時間75時間

共有

バッジ検証

バッジ再発行

OBv3.0形式

# JV-Campusが提供するコンテンツ群 (2026.5.31現在)

## JVC 共同利用コンテンツ

(各大学がJV-Campus規格に沿って開発した共同利用を想定したコンテンツ群 (無料))

27大学 41プログラム、988講義

プログラム数 / 講義回数

### 日本の文化・社会と地域創成

5 / 212

- ▶ 日本史・社会構造 0/42
- ▶ 日本の伝統・芸術と生活文化 0/69
- ▶ 日本の地域・観光と持続可能性 3/66
- ▶ 日本の言語と教育 2/35

### グローバルな持続可能性と環境

7 / 180

- ▶ 気候変動科学と政策 5/99
- ▶ 環境評価とマネジメント 2/48
- ▶ 環境技術とカーボンニュートラル 0/18
- ▶ 食・農とエコシステムサービス 0/15

### 国際リテラシー

14件

14 / 273

- 平和・紛争と国際協力 12/213
- 海洋・海事テクノロジー 2/60

### 科学とテクノロジー

4 / 80

- ▶ AIと情報科学 2/48
- ▶ エネルギー・環境科学 2/32

### ビジネスとマーケット

7 / 153

- ▶ 経済・市場構造 5/75
- ▶ 日本のキャリア・ビジネス慣習 0/30
- ▶ ビジネス創出・デザイン 2/48

### グローバルヘルスと医療

4 / 90

- ▶ グローバルヘルスと医療 4/90

プログラム数 / 講義回数

## 個別機関Boxコンテンツ

(大学・企業の独自企画 (無料・有料))

85機関 1, 058件(日)/943件(英)

- ▶ 自然科学 167/156件
- ▶ 生物資源・農学 81/63件
- ▶ 工学 67/59件
- ▶ 情報・データサイエンス 32/30件
- ▶ 建築・芸術 45/41件
- ▶ 医学医療・健康 49/44件
- ▶ 教育 41/39件
- ▶ 言語 129/122件
- ▶ 国際関係 69/43件
- ▶ 人文・社会科学 180/156件
- ▶ ビジネス・経営 48/46件
- ▶ 資格・試験 14/13件
- ▶ 観光 14/15件
- ▶ その他 61/58件

海外大学・企業等の提供コンテンツ 93件

## 【日本語学習者と日本語教師の双方へのポータル】

13機関 47コンテンツ提供中

- ・学習サポートツール紹介
- ・就職、留学、資格試験案内
- ・学習者・教師へのインタビュー

## 外国人学習者への支援・その他

### 日本と日本の大学を知ろう

大学紹介、学部や研究科の紹介、研究室の紹介など留学先を探せる

313件

### 就職支援機能

- ▶ オンラインインターンシップ
- ▶ 留学生と企業のコミュニケーションメタバース

### 国内学生の留学支援

#### ▶ 留学準備プログラム

オックスフォード大学 / ケンブリッジ大学 進学特別学習塾

#### ▶ 留学プログラムの事前・事後学習の提供

### マイクロ credenシャルプログラム

- ▶ 日本の伝統文化・思想リテラシー
- ▶ 現代日本社会の諸課題リテラシー



### 模擬授業

109件

# 無料で学習できるJV-Campusの学習コンテンツ群 (JVC共同利用コンテンツ)

## Japanese Culture, Society, and Regional Revitalization

日本の文化・社会と地域創生

## Japanese History and Social Structure

/日本史・社会構造

### 日本社会をかたちづくる歴史と構造

歴史の積み重ねの中で形づくられてきた日本社会の姿を、多角的な視点から読み解きます。過去と現在をつなぎながら、その構造と変化への理解を深めます。

On Air

Comparison of Complex courses Among Faculty

Faculty: Complex, District Governor, Other Faculty, Complex, Provincial Governor, University

無料

千葉大学  
風土記から見る古代日本

On Air

先史考古学における遺跡の発掘調査と研究方法について

無料

千葉大学

## Global Sustainability and the Environment

グローバルな持続可能性と環境

## Climate Change Science and Policy

/気候変動科学と政策

気候変動を読み解き、未来を構想する

## Business and Markets

ビジネスとマーケット

## Economics and Market Structure

/経済・市場構造

世界と資源を読み解く経済の視座

世界経済の動きと市場の構造を捉え、資源・成長・格差をめぐる課題を多角的視座を養います。

On Air

International Economics 国際経済

無料

JV-Campus × 千葉大学  
国際経済

Learning



分野 | 人文・社会科学

型・形〜日本伝統武道における叡智の伝達方法〜科学的アプローチを補完する方法として

型・形 #武道 #東洋思想 #科学哲学

日本の伝統的な武道や芸能などで継承される「型・形」を講師本人の実演とともに紹介し、叡智の伝達・共有の方法体系としての特徴を紹介する (Part 1)。科学的方法論との対比により、型的アプローチを科学では扱いきれない主題や対象を処理するための方法的ツールとして定式化する (Part 2)。漢方・中国医学といった伝統医学に加え、デザイン思考やアート思考といったビジネス思考分野など、現代に生きる型アプローチを紹介する (Part 3)。

対象 学士、修士、一般、高校生 使用言語 英語 英語  
単元時間 45-60分 開始月 随時 受講期間 短期間 配信方法 オンデマンド



## JV-Campus独自のコンテンツフォーマット

- ・授業一回=15分程度の動画 x 3本
- =45分以上の動画を基本
- ・日英両言語対応
- ・独自の科目分類、動画構成・背景・フォント等

The sense make it possible  
Kata Approach

Sense of one as all and all as one, and



the feeling is kind of the sense of one as all

## Science and Technology

科学とテクノロジー

## AI and Information Science

/AIと情報科学

### AIと情報がひらく新しい知のかたち

AIと情報科学の広がりを読み、社会課題の発見と解決に向けた新たな可能性を探ります。デジタル時代の知の基盤に触れます。

On Air

Practical Training of Deep Learning ディープラーニング応用演習

無料

JV-Campus × 秋田大学

Learning

On Air

Advanced Mining Informatics 資源情報学特論

無料

JV-Campus × 秋田大学

Learning

On Air

講義・集合・写像の基礎

無料

筑波大学

Learning

On Air

データベースとは

無料

広島大学

Learning

## Global Health and Medicine

グローバルヘルスと医療

## Global Health and Medicine

/グローバルヘルスと医療

### 健康とケアの多面的理解

保健・福祉・医療に関わる幅広い視点から、健康とケアをめぐる現代的課題を学びます。地域社会からグローバルな課題まで、人々の暮らしを支えるしるしを考えます。



On Air

Cross-sectional Health Care クロスセクショナルヘルスケア

無料

JV-Campus × 東北大学

Learning

On Air

Living Health リビング・ヘルス

無料

JV-Campus × 千葉大学

Learning

On Air

Community Health Care 地域ヘルスケア

無料

JV-Campus × 千葉大学

Learning

On Air

Psychosocial Health Care サイコソーシャルヘルスケア

無料

JV-Campus × 東北大学

Learning

# JV-Campus日本語ひろばを通じた日本語学習のサポート from 2024.10

## 【日本語学習者と日本語教師の双方へのポータル】

What dreams do you want to fulfill?  
Nihongo-Hiroba supports learners and teachers worldwide, providing resources for study and information on study abroad and job opportunities.

- ・13機関・47 日本語学習コース
- ・学習サポートツール紹介
- ・就職、留学、資格試験案内
- ・学習者・教師へのインタビュー

筑波大学 東京外国語大学 横浜国立大学 京都大学 昭和女子大学 東洋大学 国際大学 関西大学 立命館アジア太平洋大学 国際交流基金 NHK国際放送局 関西国際大学 甲南大学

### 日本留学前の日本語初心者から日本での就職に必要なレベルまで様々な日本語教育のコースを提供

日本語レベル：CEFR (JLPT・BJTとも対応)

A1 (N5)	A2 N4/J5	B1 (N3)/J4	B2 (N2)/J3	C1 (N1)/J2	C2 J1,J1+
------------	-------------	---------------	---------------	---------------	--------------

学習カテゴリ

総合	話す	聞く	書く
読む	文法	語彙	文字

A1,A2

Easy Japanese  
やさしい日本語  
Conversation lessons

A2,B1

Japanese Conversation  
- Learn Natural Conversation -  
日本語会話 - 自然な会話を身につけよう -

A2,B1

ONLINE JAPANESE LANGUAGE PROGRAM 2026

C1,C2

TUFSオープンアカデミー  
オンライン日本語講座：教養講座  
「日本社会を学ぶ」

### 進学・就職、日本語試験の情報を一元的に外国人留学生に提供

### 日本語教師に対する授業等の支援コンテンツを提供

Japan create: The future is wh...

日本留学試験

関西大学 日本での就職活動

関西大学 日本での就職活動の方法

高度外国人材 活躍推進ポータル

外国人留学生のための 就活ガイド 2027

自己分析の方法

自己PRの文書作成

筑波大学 TsukuBOO

筑波大学 テテ Reading Checker

東洋大学 ティーチング入門講座

ON-DEMAND



# JV-Campusと他のプラットフォームの違い

観点	JV-Campus	Coursera / edX	Udemy	gacco	JMOOC
主目的	日本の高等教育の国際化・留学活性化・国際教育の推進	世界大学のMOOC提供	スキル教育	日本語での学習のMOOC	日本MOOCの普及
運営主体	省庁＋大学連携	民間企業＋大学	民間企業	民間＋大学	一般社団法人JMOOC
コンテンツ提供者	大学・教育機関	世界の大学	個人講師・企業	大学・企業	大学・企業
学習者対象	世界の学生・留学希望者	世界の一般学習者	一般社会人	主に日本語での学習者	日本の一般学習者
役割	日本の大学の国際教育ハブ・教材のクラウドリソース	MOOC教育サービス	スキル講座マーケット	日本版MOOC	日本版大学MOOC

# JV-Campusポータルサイトの現状 (2022.4.1-2026.5.31)

訪問ユーザー数累計

**480,225** 人

ページ表示回数累計

**2,671,451** 回

LMS (Moodle) 学習登録者数

**9,417** 人

参加大学・団体・企業数

個別機関BOX  
企業BOX 計

**88** 機関

参加機関の総コンテンツ数

個別機関BOX  
企業BOXの  
公開数計

**1,005** コンテンツ

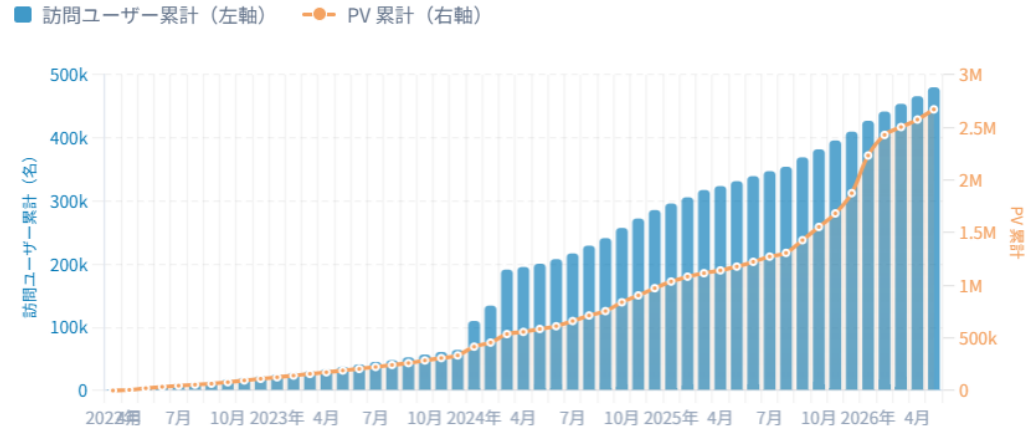
共同利用コンテンツ数

**988** 講義 **41** プログラム

サイトへの訪問が確認された国・地域

**185** の国と地域

累計訪問ユーザー数 (棒) + 累計PV数 (折れ線)



Moodle 登録者数累計 (棒) × 訪問ユーザー累計 (折れ線)



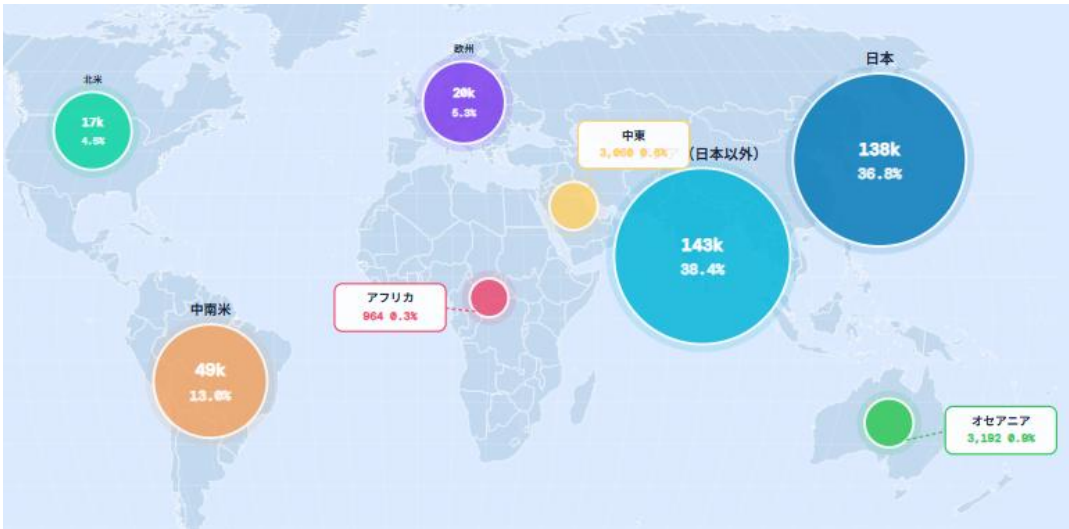
# JV-Campusポータルサイト世界アクセス状況 (2022.4.1~2026.4.30)

訪問ユーザ数の約6割以上が海外ユーザ

## 国別訪問者数 (Portal + Moodle 合算) 上位 30

Portal + Moodle 合算

順位	国名	エリア	訪問者数	割合	規模
1	Japan	日本	137,588	36.8%	
2	Indonesia	アジア (日本以外)	32,611	8.7%	
3	Bangladesh	アジア (日本以外)	32,363	8.7%	
4	Nepal	アジア (日本以外)	26,831	7.2%	
5	United States	北米	16,084	4.3%	
6	Brazil	中南米	13,262	3.6%	
7	China	アジア (日本以外)	11,007	2.9%	
8	Thailand	アジア (日本以外)	9,852	2.6%	
9	Suriname	中南米	9,729	2.6%	
10	Singapore	アジア (日本以外)	6,607	1.8%	
11	India	アジア (日本以外)	6,245	1.7%	
12	Colombia	中南米	5,523	1.5%	
13	Bolivia	中南米	5,522	1.5%	
14	Venezuela	中南米	4,697	1.3%	
15	Guyana	中南米	4,369	1.2%	
16	Taiwan	アジア (日本以外)	3,429	0.9%	
17	Kosovo	欧州	2,578	0.7%	
18	Pakistan	アジア (日本以外)	2,544	0.7%	
19	Ukraine	欧州	2,415	0.6%	
20	Argentina	中南米	2,183	0.6%	
21	Myanmar (Burma)	アジア (日本以外)	2,146	0.6%	
22	Vietnam	アジア (日本以外)	2,139	0.6%	
23	France	欧州	2,033	0.5%	
24	Germany	欧州	2,003	0.5%	
25	Bhutan	アジア (日本以外)	1,860	0.5%	
26	Australia	オセアニア	1,824	0.5%	
27	United Kingdom	欧州	1,583	0.4%	
28	Poland	欧州	1,555	0.4%	
29	Albania	欧州	1,554	0.4%	
30	Afghanistan	中東	1,501	0.4%	



1. 国別訪問者数のソースはWordpressのみ、moodleは取得対象外です。
2. サイト訪問時のデータから訪問ユーザのロケーションを推測しています。
3. ロケーションが特定できない訪問者は除外されています。
4. 国名の表記はgoogleデータ中の名称に拠って記載しております。
5. Googleの定義において、重複訪問者数は除外されています。

- ① JV-Campusとは
- ② JV-Campusにおけるマイククレデンシャル
  - 内部質保証（内容と体制）
  - 外部質保証（JMICROの活用）
  - JV-Campusマイククレデンシャルの展開
- ③ JV-Campusの新たな展開

# 英語で学ぶ日本社会・日本文化



JV-Campusオリジナルの**英語で学ぶ**マイクロレデンシヤルコース  
(Open Badgeとeポートフォリオをフル活用)  
(2025年度9月より配信；β版無償)

## 日本文化 マイクロレデンシヤル

学習内容（合計1.5単位相当分×2）

- ・現代日本社会の諸課題（1.5単位相当分）（24授業回）
- ・日本の伝統文化・思想リテラシー（1.5単位相当分）（24授業回）



## JV-Campusにおける教育コンテンツ および マイクロレデンシヤルの質保証

### JV-Campus独自の コンテンツフォーマット

- ・授業一回＝15分程度の動画×3本＝45分以上の動画を基本
- ・各15分動画に理解度確認の小テスト（多肢選択等）
- ・授業一回ごとに課題（小テストやレポート課題等）
  - ・日英両言語対応
- ・独自の科目分類、動画構成・背景・フォント等

### 内部質保証

### JV-Campus運営委員会による コンテンツの質保証

- ・月1回の運営会議
- ・専門部会による予備審査体制

### 外部質保証 一般社団法人



### 日本マイクロレデンシヤル機構による マイクロレデンシヤルの質保証

- ・ガイドライン、フレームワーク、審査体制の構築

マイクロレデンシヤルだけでなく、より簡便に学習できるサーティフィケーションコース（OB付）なども準備中

# 英語で学ぶ日本社会・日本文化

## 日本の伝統文化・思想リテラシー

マイクロレディンシャルプログラム / 日本の伝統文化・思想リテラシー

### 内容

日本の伝統的な文化と思想を「宗教、哲学、武道、舞台芸術、書物、美術、服飾、飲物」という視点で理解し、現代の日本人や日本社会の慣習や生活を理解する基盤的知識を身につける。

キーワード

### 学習量(総学習時間)

総学習時間:

75 時間

内訳:

授業30時間(1授業{(15分講義+10分小テスト) x 3 clips} x 24回 = 1800分)

授業外学習45時間(補足的理解)

### 評価の方法

- 講義動画(15分)ごとに課される多肢選択問題の正誤
- 各カテゴリー(「現代日本の文化的・社会的背景(授業8回分)」「地域社会の課題と挑戦(授業8回分)」「世界中での日本(授業8回分)」)の修了ごとに課される総括理解に関する多肢選択問題の正誤

### 獲得条件

学修成果で記載された内容について以下の要件を満たすことでの達成したと判断する。

- ✓ 講義動画をすべて視聴すること
- ✓ 講義動画(15分)ごとに課される多肢選択問題に全問正解すること
- ✓ 各カテゴリー(「現代日本の文化的・社会的背景(授業8回分)」「地域社会の課題と挑戦(授業8回分)」「世界中での日本(授業8回分)」)の修了ごとに課される総括理解に関する多肢選択問題に全問正解すること

### 質保証

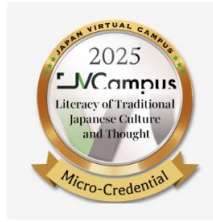
- 各授業に関してはJV-Campus運営委員会において基準とフレームワークを満たしているか審査と毎年の自己点検を実施
- マイクロレディンシャルのパッケージ化に関してはJV-Campus運営委員会においてマイクロレディンシャルをデジタル発行するためのマイクロレディンシャルのフレームワーク(枠組み)1.0([https://micro-credential-jwg.org/wp-content/uploads/2024/04/MC\\_frameworkver1.0.pdf](https://micro-credential-jwg.org/wp-content/uploads/2024/04/MC_frameworkver1.0.pdf))の基準を満たしているか毎年の自己点検を実施
- 一般社団法人日本マイクロレディンシャル機構による外部評価および認証

### 単位/その他の認定

- 学修総時間としては1.5単位に相当

### 受講に関する前提条件

特になし



受講料

無料

受講コースの詳細

発行機関

JV-Campus

発行国/地域

日本

言語

英語

実施方法

- 講義
- 多肢選択テスト
- オンデマンド

レベル

- 大学学部レベル
- JEQF Level 6 (<https://niadqe.jp/information/higher-education-degree-2/>)

証明書

JV-CampusよりMicrocredential「現代日本社会の諸課題リテラシー」オープンバッジを発行する。オープンバッジは一般社団法人日本マイクロレディンシャル機構(<https://micro-credential-jwg.org/>)が発行する「マイクロレディンシャルをデジタル発行するためのガイドライン 3.0」に準拠する。

## Content / 学習内容

### ▼ 詳細

日本の伝統的な宗教・哲学

#### 講義名

#### 日本における宗教:概論

本科目は、現代日本における「宗教」の捉え方をクリティカルに扱う科目である。宗教に関する基本的な情報、宗教研究における学術的なアプローチ、そして「日本の宗教」に関する一般的な言説を解説する。これらの目的を達成するために、本科目は、日本の宗教についてよく耳にする3つのステレオタイプの発言を批判的に検証することを中心に構成されている。その3つの表現は「日本人は無宗教である」、「日本の宗教には共通の特徴がある」と「日本人は宗教的であるが、彼らはそれを知らないだけである」である。

#### コンテンツ作成

千葉大学

- ▶ 「日本人は無宗教である」と宗教研究
- ▶ 日本の宗教に関する教科書
- ▶ 統計で見る日本の宗教

#### 講義名

#### 神道と持続可能性

神道の神話の粗筋を説明して、そこから読み取れる神道の世界観、自然観、人間観の特徴を説明する。その上で、自然環境の保全において重要な役割を果たしている稲と木と麻と神道神話との関わりを述べ、今日までのそれぞれの生産の歴史と今日の課題を説明する。これによって、神道が持続可能性に対して果たす役割について考えることを促す。

#### コンテンツ作成

皇學館大学

- ▶ 神道の神話の前半の説明
- ▶ 神道の神話の後半と植物の起源
- ▶ 神道と稲、木、大麻

#### 講義名

#### お祓いと神道

神道は、日本の自然環境や歴史の影響を受けて、現在の姿へと変容してきた。祓は、神道の中でも重要なもので、その歴史を辿ると、神道や、その基層をなす日本文化がみえてくる。この動画では、現在の祓を読み解きながら、その形成過程や思想、さらには日本人の清浄観を説明する。また、國學院大学は、明治15年(1882)以来、神道研究・古典研究を進めてきており、関連する学術資産を数多く有する。動画では、これらも活用する

#### コンテンツ作成

國學院大学

- ▶ 神道儀式とお祓いの起源
- ▶ お祓いと夏祭り
- ▶ お祓いの祭具と儀式の場

## JV-Campusにおける教育コンテンツ および マイクロレデンシャルの質保証

### JV-Campus独自の コンテンツフォーマット

- ・授業一回=15分程度の動画 x 3本=45分以上の動画を基本
- ・各15分動画に理解度確認の小テスト(多肢選択等)
- ・授業一回ごとに課題(小テストやレポート課題等)
  - ・日英両言語対応
- ・独自の科目分類、動画構成・背景・フォント等

### 内部質保証

#### JV-Campus運営委員会による コンテンツの質保証

- ・月1回の運営会議
- ・専門部会による予備審査体制

### 外部質保証

#### 一般社団法人



#### 日本マイクロレデンシャル機構による マイクロレデンシャルの質保証

- ・ガイドライン、フレームワーク、審査体制の構築

## How is contemporary Japanese society often understood? (Cont.)

- The binary images of:
  - high technology and tradition
  - urban cities and rural areas with great nature
- **Strong economy=affluent society**
- **salaryman(male white-collar workers = middle-class men) and their spouses as housewives.**

#### The aims of this whole lecture:

1. To understand Japanese society beyond uniform images through the perspective of social class
2. To understand Japan (and other countries) from diverse and critical approaches



Source: Vogel(1999)



Source: Bester, et al. (eds) (2011)

- To understand Japan (and other countries) from diverse and critical approaches.

Time left 0:29:49

Hide

#### Question 1

Not yet answered

Flag question

What does the example of the Titanic illustrate about social class?

Select one or more:

- Social class does not matter in life or death situations.
- Social class significantly affects life experiences and "life chances".
- Third-class passengers are more likely to survive in disasters.
- Social class only matters in extreme circumstances.

#### Question 2

Not yet answered

Flag question

Which of the following statements is true regarding social class in Japan?

Select one or more:

- The term "class" (kaikyū) is commonly used in Japan.
- Japan has historically maintained a status-oriented hierarchy.
- Due to its rapid economic growth, Japan has been recognized as a "100 million middle-class society" up to the present day.
- The term "gap society" (kakusa shakai) has been used in Japan since the 1980s.

#### Question 3

Not yet answered

Flag question

Which of the following statements accurately describes Japan's economic trends?

Select one or more:

- Japan experienced high economic growth from 1955 to 1973, leading to the perception of a "one-hundred million middle-class society."
- Japan's economy continued to thrive even after the collapse of the bubble economy in the early 1990s.
- The increase in non-regular employment began in the late 1970s.
- The Great East Japan Earthquake had no significant impact on Japan's economy.

# JV-Campusにおける内部質保証②(JV-Campus運営委員会)

SGU事業・大学の国際化促進フォーラム(2024年12月31日、幹事校15大学、132機関参加)

## JV-Campus運営委員会



## 幹事校



## JV-Campusにおける教育コンテンツ および

### マイクロレデンシャルの質保証

#### JV-Campus独自の コンテンツフォーマット

- ・授業一回=15分程度の動画 x 3本=45分以上の動画を基本
- ・各15分動画に理解度確認の小テスト(多肢選択等)
- ・授業一回ごとに課題(小テストやレポート課題等)
  - ・日英両言語対応
- ・独自の科目分類、動画構成・背景・フォント等

### 内部質保証

#### JV-Campus運営委員会による

#### コンテンツの質保証

- ・月1回の運営会議
- ・専門部会による予備審査体制

#### 外部質保証 一般社団法人



#### 日本マイクロレデンシャル機構による マイクロレデンシャルの質保証

- ・ガイドライン、フレームワーク、審査体制の構築

## 月1回の月例会議

「Japan Virtual Campus」運営委員会規約

### 【目的】

第1条 大学の国際化促進フォーラム(以下「本フォーラム」という。)規約第3条第1項第2号に定めるオンライン国際教育プラットフォーム事業「Japan Virtual Campus」の展開に際し、必要な事項を審議する「Japan Virtual Campus」運営委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会の組織及び運営については、この規約の定めるところによる。

### 【組織】

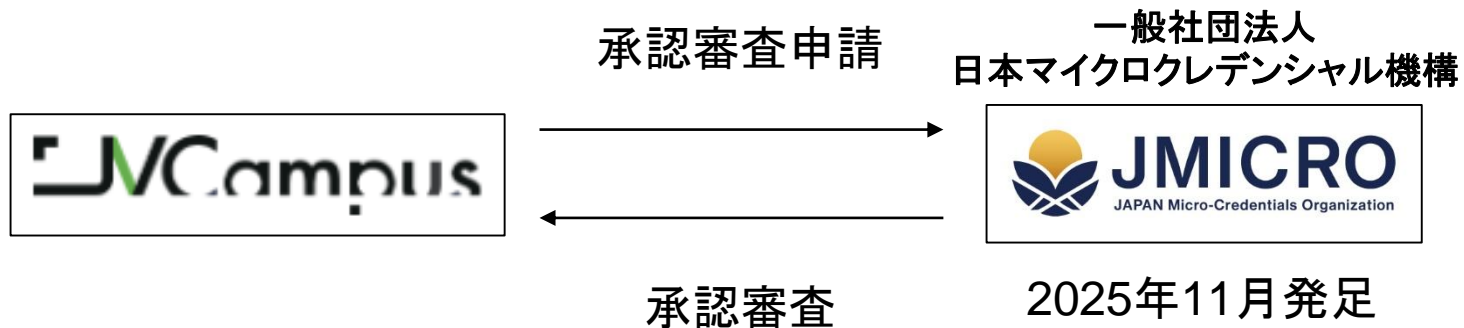
第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織し、本フォーラム規約第4条第4項に基づき、副代表幹事校の代表者が委員長としてこれを統括するものとする。

- (1) 代表幹事校の代表者
- (2) 副代表幹事校の代表者
- (3) 事務局幹事校の代表者
- (4) 幹事校のうちから、副代表幹事校が指名する幹事校の代表者 若干人
- (5) 幹事校以外の会員校等のうちから、副代表幹事校が指名する機関等の代表者 若干人
- (6) その他、副代表幹事校が委嘱する有識者 若干人

2 第1項第4号から第6号までの委員の指名又は委嘱に当たっては、あらかじめ委員会の意見を聴くものとする。

3 第1項第4号から第6号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、指名又は委嘱する副代表幹事校の任期の終期を超えることはできない。

# JV-Campusにおける外部質保証②(JMICROにおける質保証)



## 日本の伝統文化・思想リテラシー

マイクロレデンシャルプログラム / 日本の伝統文化・思想リテラシー

### 内容

日本の伝統的な文化と思想を「宗教、哲学、武道、舞台芸術、書物、美術、服飾、飲物」という視点で理解し、現代の日本人や日本社会の慣習や生活を理解する基盤的知識を身につける。

### キーワード

神道、仏教、哲学、武道、芝居、書、古文書、マンガ、着物、茶道、日本酒

### 学修成果

- 日本の伝統的な宗教観と哲学観を理解できる。
- 日本の伝統的な武道や舞台芸術といったパフォーマンスアートについてその思想とともに理解できる。
- 日本の伝統的な書物・美術・服飾・飲物といった生活に関わる文化についてその思想とともに理解できる。

### 学習量(総学習時間)



受講料

無料

受講コースの詳細

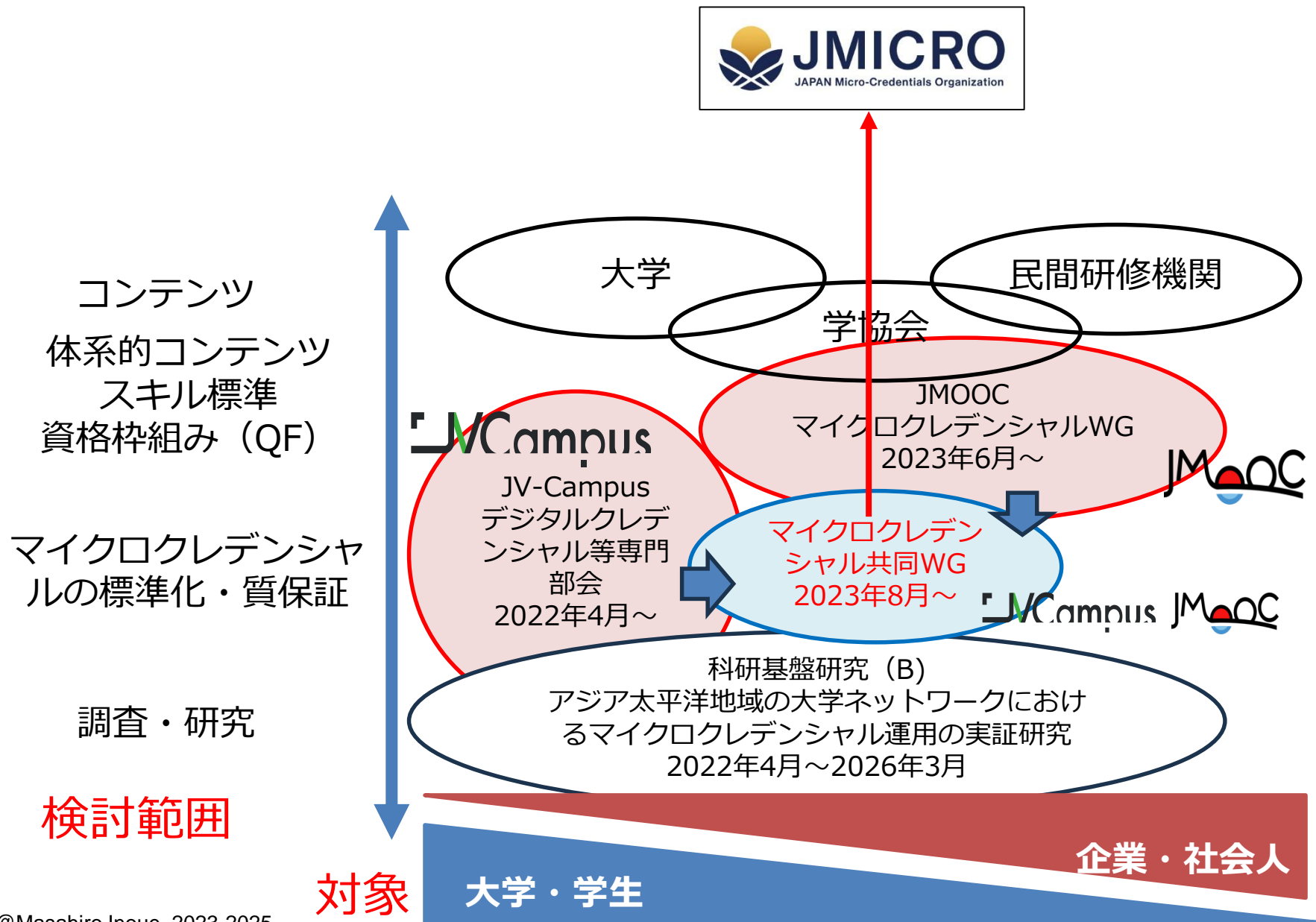
### レベル

- 大学学部レベル
- JEQF Level 6  
(<https://niadqe.jp/information/higher-education-degree-2/>)

### 証明書

JV-CampusよりMicrocredential「現代日本社会の諸課題リテラシー」オープンバッジを発行する。オープンバッジは一般社団法人日本マイクロレデンシャル機構(<https://micro-credential-jwg.org/>)が発行する「マイクロレデンシャルをデジタル発行するためのガイドライン 3.0」に準拠する。

# JMICROとJV-Campus



## 1. 設立の背景と趣旨

- ・ 現代社会において、急速に変化する労働市場や技術革新に対応するため、従来の学位制度に加え、柔軟かつ多様な学修成果の証明手段として「マイクロデンシヤル (Micro-credentials)」への関心が世界で高まりつつあり、UNESCOやOECD、EU諸国をはじめとした国際機関や政府がその重要性を認識し、標準化と認証の枠組みを推進しており、タイやオーストラリアなどのアジア太平洋地域においても同様の動きが進行している。
- ・ 一方、日本においては、マイクロデンシヤルの取り組みを始めているものの学修成果の信頼性確保、国際的互換性の担保、社会的な認知度の向上といった課題が依然として残っている。
- ・ こうした状況を踏まえ、国内におけるマイクロデンシヤルの質保証・標準仕様の策定と外部認証制度の構築を推進するため、民間・教育界・学術界・産業界の有識者が連携し、公益の立場で運営する一般社団法人を設立するに至った。

## 2. 事業内容

### 1) マイクロデンシヤルの仕様・標準の策定および普及

- ・UNESCO等の調査を踏まえ、国際連携を促進できる国内標準化の策定
- ・デジタル証明(Open Badge等)との連携設計

### 2) 第三者によるマイクロデンシヤルの外部承認制度の構築・運営

- ・教育機関・企業等が発行するプログラムに対する審査・承認
- ・公正かつ透明な承認プロセスの整備
- ・承認マーク・登録制度の管理

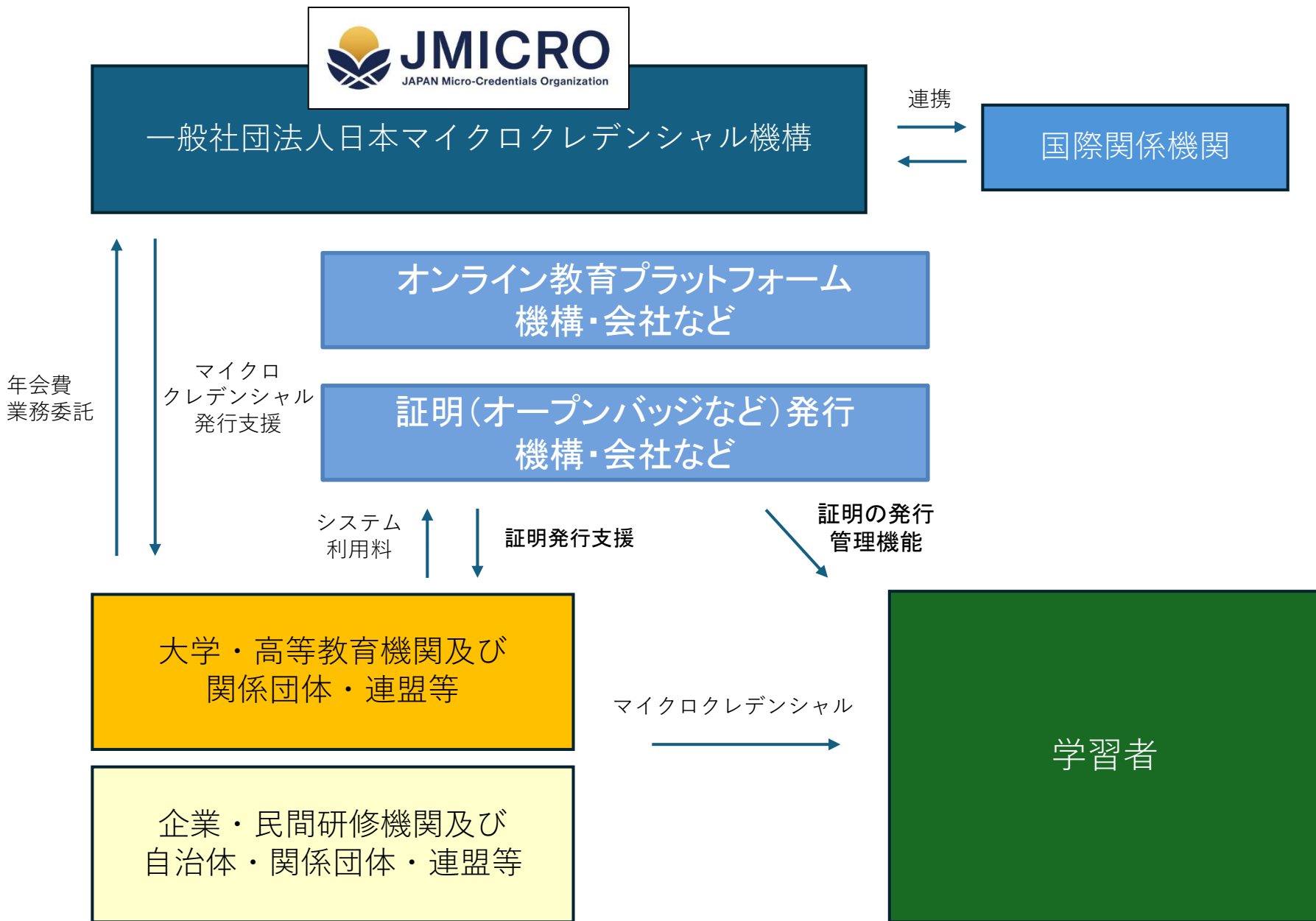
### 3) マイクロデンシヤルの可視化・流通促進

- ・資格枠組み(NQF)、スキル標準、職能フレームワークへのマイクロデンシヤルの体系的なマッピング
- ・取得者の学習成果の記録・ポートフォリオ支援
- ・企業や社会への認知・活用支援

### 4) 政策提言および国際連携の推進

- ・日本国内の制度整備に向けた調査・政府への提言
- ・アジア太平洋地域を中心とした標準共有・相互承認の促進

# 一般社団法人日本マイクロデンシヤル機構(JMICRO)とは



# JMICROによるマイクロクレデンシャルの定義

1. 学習者が知っていること、理解していること、またはできることを証明する、対象が重点化された学修成果の記録
2. 明確に定義された基準に基づいたアセスメントを含み、信頼できる提供者によって授与されるもの
3. 単独で価値を持ち、さらに他のマイクロクレデンシャルまたはマクロクレデンシャルの一部を構成したり、それらを補完したりすることができるもの（既修得学習の認定も含める）
4. 関連する質保証が求める基準を満たすもの



## 共通記述子

項目名	項目名（英語例示）	JMICRO	EU	Australia	Malaysia	履修証明
学習者を識別する情報	Identification of the learner	必須	必須		有り	有り
発行日	Date of issuing	必須	必須		有り	有り
マイクロクレデンシャル名称	Title of the micro-credential	必須	必須	必須	有り	有り
発行機関	Awarding body	必須	必須	必須	有り	有り
発行国／地域	Country/Region of the issuer	選択	必須			
内容	Content/ Description	必須		必須		有り
学修成果	Learning outcomes	必須	必須	必須	有り	
授業の方法	Form of participation	必須	必須	必須	有り	有り
授業言語	Language	選択		必須	有り	
学習量（総学習時間）	Learner Effort	必須	必須	必須	有り	有り
評価の方法	Type of assessment	必須	必須	必須	有り	有り
質保証	Type of quality assurance	必須	必須	必須	有り	有り
レベル	Level	選択	必須		有り	
証明	Certification	選択		必須		有り
単位/その他の認定	Credit/ Other Recognition	必須	必須	必須	有り	有り
（受講）前提条件	Prerequisites needed to enroll	選択	選択	必須	有り	有り
積み上げ可能性	Stackability	選択	選択	選択		

# JMICROによる承認審査

7月上旬より

## JMICROによるマイクロレデンシヤル承認審査に関する パブリックコメントを開始予定

### マイクロレデンシヤル質保証・承認制 度に関するアンケート

一般社団法人日本マイクロレデンシヤル機構（JMICRO）では、マイクロレデンシヤル（MC）の質保証・承認制度の導入を検討しています。

下記の項目について、アンケート回答のご協力をお願いいたします。

○アンケート実施期間：2026年7月6日（月）～7月31日（金）まで

○アンケート項目全体：下記の項目についてご回答をお願いします。

- I. 回答者属性
- II. 制度全体について
- III. 審査内容について
- IV. 市場適合性審査について
- V. 料金について
- VI. 承認期間について
- VII. 承認取得のメリット
- VIII. 制度利用意向
- IX. 自由意見

○アンケート回答時間の目安：約15分

※ 本アンケートは、制度案の実効性・受容性・市場適合性を確認するために実施するものです。

※ ご回答いただいた内容は制度の検討以外の目的では使用いたしません。

承認審査を2026年9月に受付開始予定  
（会員も随時募集中（by JMICRO事務局長））

## 「国際性 × 接続性 × 実効性」を見据えた展開

単なるオンライン教材配信ではなく、日本の大学群の知を束ね、国際的課題に応答し、単位接続性を持ち、大学と産業をつなぐ、「国際教育インフラ」になることを目指す。

1. 「学修接続性」を高める設計
2. 「大学向けB2B展開」の深化
3. 「大学・社会接続性」の強化
4. 「国際共創型」マイクロレデンシャルへの発展
5. 「日本ブランド強化」戦略

- ① JV-Campusとは
- ② JV-Campusにおけるマイククレデンシャル
  - 内部質保証（内容と体制）
  - 外部質保証（JMICROの活用）
  - JV-Campusマイククレデンシャルの展開
- ③ JV-Campusの新たな展開

## JV-Campusとgaccoの連携で、日本の高等教育を世界へ

教育版の国際空港ターミナルとして、大学の知を社会・企業・世界へつなぐ



日本の高等教育の国際的な玄関口

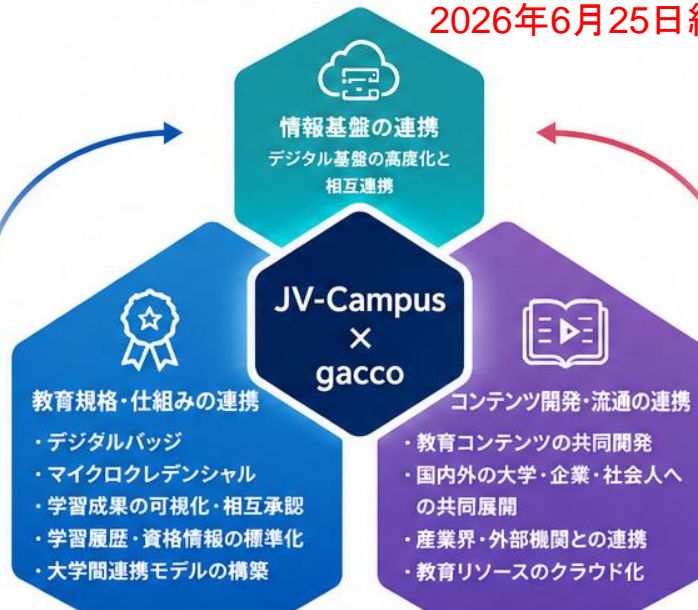
LOI 締結による連携

2026年6月25日締結



130万人の受講者基盤を有する  
オンライン学習プラットフォーム

-  **大学ネットワーク**  
全国の大学・教育機関・企業が持つ多様な教育資源を結集
-  **国際教育プラットフォーム**  
オンラインで世界中の学習者に日本の教育を届ける
-  **世界への教育発信**  
日本で学ぶ入口となる「教育版の国際空港ターミナル」



-  **130万人の受講者基盤**  
多様な学習者に支持されるオンライン学習コミュニティ
-  **大学・企業ネットワーク**  
全国の大学・企業との連携基盤を活かした学びの提供
-  **社会人学習基盤**  
AI時代に求められる多様な学びを設計・提供

### 目指す未来

学びが国境を越え、知が社会と世界をつなぐ共創エコシステムへ

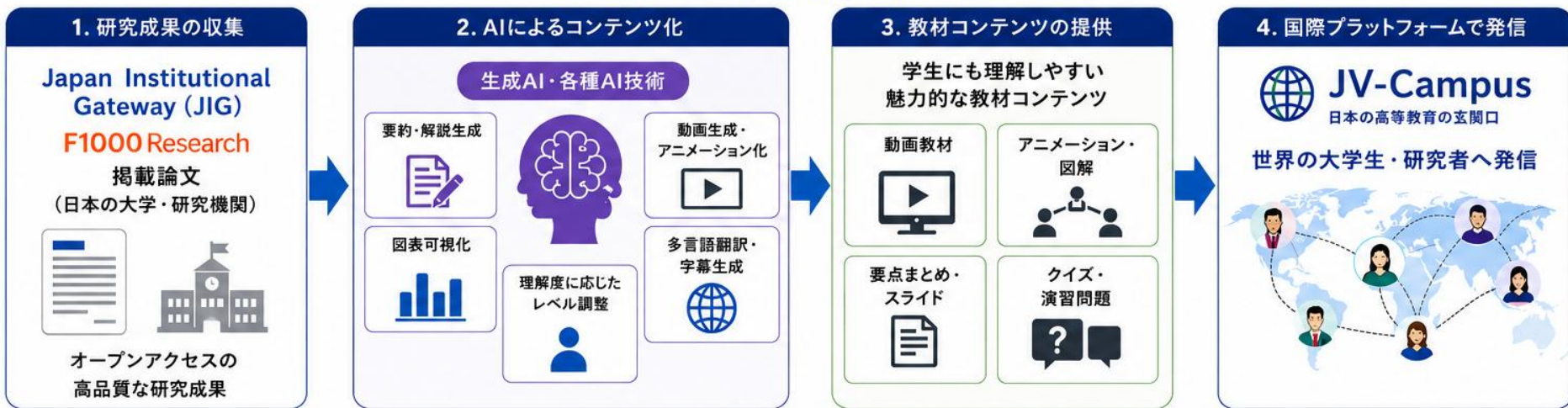


日本の知が、世界の未来をつくる。

# JV-Campusの新たな展開② JIG (F1000Research) x JV-Campus

日本の研究成果を教材に、そして、世界へ

## ～ Research to Learning (R2L) プロジェクト～



## 教育・学習への活用と社会への展開

### 学部・大学院教育での活用



- 最先端研究トピックを授業・演習で活用
- 反転授業・PBL・探究学習の教材に
- 多様で魅力的な学習機会を提供

### 国際的な研究発信・人材獲得



- 日本の研究力を世界へ可視化
- 留学・大学院進学への関心喚起
- 国際共同研究の促進
- 中等教育への研究の魅力発信

### 社会人教育・リスキリングへの展開



- 企業研修・生涯学習コンテンツへ活用
- 先端分野の知識習得を支援
- 産学連携・社会実装の加速

## 期待される波及効果

### 1 研究力の向上 (博士人材の獲得)

- 日本の研究の魅力を世界に発信
- 優秀な博士人材の獲得促進
- 大学院進学への機運醸成



### 2 教育力の補完・高度化

- 最先端研究へのアクセス向上
- 探究型・主体的学習の促進
- 教育の質的向上と学習機会拡充



### 3 日本研究の国際的 プレゼンス向上

- 日本の研究を世界へ可視化
- 国際共同研究の促進
- Study in Japanの強化



### 4 オープンサイエンス推進と 研究成果の社会還元

- 研究成果を広く社会へ還元
- 専門家以外にも理解可能に
- 知識の循環と社会実装を促進



### 5 AI時代の新たな 大学モデル形成

- AI活用による教材生成基盤確立
- 教員の負担軽減と教育DX推進
- 研究×教育の融合モデル構築



研究成果を「読む」から「学ぶ」へ 日本の知を世界の学びへ

関連機関・連携



国内大学・研究機関



産業界・自治体



海外大学・教育機関

# 普及・理解増進活動（JV-C茶話会（毎月開催（8月・1月以外）））



## 第11回 JV-C 茶話会

### 新年度キックオフ！

# JV-Campus 概論と活用例

新年度のスタートにあたり、今回は JV-Campus 運営委員会委員長の大庭先生をお迎えます。前半は「JV-Campus 概論」として、JV-Campus とは何かをお話しいたします。後半は、大庭先生が担当されている筑波大学地球規模課題学位プログラム（BPGI）を舞台に、「教員個人として、既存の JV-Campus のコンテンツをいかにして自らの授業に組み込み、教育効果を高めているか」という実践的なノウハウをご共有いただきます。

#### JV-C 茶話会とは？

JV-Campus のシステム操作方法といった初歩的な疑問から、JV-Campus を使ったオンライン教育の未来まで、参加者同士で自由に意見交換できる場です。

2026 4.15 WED  
15:00 ~ 16:00

オンライン開催・参加無料

参加申込は  
こちら



お問い合わせ先：jvc-renkei@un.tsukuba.ac.jp



## 第12回 JV-C 茶話会

# 試行錯誤と失敗から学ぶ JV-Campus の活用

今回は筑波大学教授の森尾先生をお迎えます。森尾先生は、「インクルーシブなスマートソサエティーを創成する国際スタートアップ人材の育成（ISS）」をはじめとした、多岐にわたる先進的な教育プログラムにおいて JV-Campus を活用されています。国を越えて学生たちが協働する際、グループワークをどう実施するか、また経験や失敗から得た教訓についてもご共有いただきます。

#### Special Guest

森尾 貴広 氏  
筑波大学国際室 教授  
京都大学にて博士（理学）を取得後、  
筑波大学アフリカ研究センター講師、  
国際部准教授などを経て、2015 年より現職。



2026 5.21 THU  
15:00 ~ 16:00

オンライン開催・参加無料

参加申込は  
こちら



お問い合わせ先：jvc-renkei@un.tsukuba.ac.jp

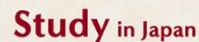
英語教材はもちろん、日本語教材も。  
国内で共有し、世界へ発信する。  
JV-Campusは、高等教育の知をつなぐ国際的なコモンズです。



JV-Campus Mutual Link Partners



the japan times



Study in Japan



Official Website  
Government approved information site



JAPAN FOUNDATION



国際交流基金



Navi Japan